



今
子
〇

香
碎

旅衣

春の川や夕を 初めの壺くさる

兵馬

洛陽

菊のつらき 途や初葉の陽

一帯

菊のつらき 途や初葉の陽

一帯

雲門

御互の鏡ふも 初日や壺の乳

紫路

壺と葉の 茶海京や初日の出

羽櫛

金花の 鏡中

花の多し 壺も 紫ん

山長

千念ふ 壺も 嘆きり

牧市

埋珠

名物と 壺も 酒も

蓮朝

書物や 壺も 酒も

夜魚

東山

物書中も 時代の 壺や 家の 壺

冬江

源々 壺も 壺も 壺も

把菊

大つて 糸 度

物 葉の陽 蓋をく 七折の表を具

如 洗

うゝ白や 蓋の別さをも 志くをり

孝 聖

仙 谷

けふうゝく 蓋の瑞の中 花のま

千 杏

菊 嵐の瑞子 家うけ 床の蓋

山 螢

神 邊

実引や 猪 海く 置く 蓋の巾

山 童

亭 進や 蓋と 蓋 月子 付て 糸子

柯 亭

以路

姑臺と次 庵子 移とや 池日の出 故竹

この臺と云 一や海生、宿の云 臥遊

宇作櫻

同利者も臺の 子そを 池鶴 鳥秋

古よ代 一の ぬれあげて 臺は 一 紫粉

小文物

承臺子 自懐の 暮や代くの 春 竹市

掃、池よ。臺の 飛行や 拍節 五逆

糸度

初葉の陽 臺を 七行の 表を 具 如 洗

うゝ白や 臺の 別さ とも 思ふ ことり 素雪

仙卷

中よろく 臺の 舞 中を 花の 表 千杏

菊 嵐の 露 子 糸 糸 床の 臺 山 螢

神巻

実引や 緒 海く 暹く 臺の中 山 童

亭 進や 臺と 糸 糸 月子 侍て 糸子 柯 亭

柳菴を袋に深く壺の去 毎塘

初雨

青くと壺も清より雨の音 車雀

大少くや柳ふる壺の糸うゑ 支山

松浦

初茶の湯少し少ふ社と壺飾 淨丈

初茶や居士しりや壺の例 市棠

千尋

遠茶や壺の糸も運合せ 秋菰

遠茶や壺の袋も千尋掛 呼空

閑居

壺の糸と糸を少くそ有の契 麦舟

壺の糸と糸を少くそ有の契 帰来

竹生山

幸津中壺と長尾ゆる大降り

芝仙

桑の毛も壺に生れくくおの妻

若冬

伏見

もつり新徳新し中壺の中中壺

巨山

桐葉も袋も深く壺のま

扁塘

初雨

青くと壺も清くりぬの暮

車雀

大しや柳ふる壺の糸うゑ

支山

松浦

初桑の陽初と少糸社と壺飾

壺夫

初房や居士らう壺の例

市棠

千尋

蓮葉中壺の壺も運合せ

秋菰

縦糸や壺の袋も千尋掛

呼雪

閑居

壺の糸と糸衣ゆく宿の妻

麦舟

妙壺と銀糸も壺も直方山

帰来

一、依二、三、此、壺、と、め、の、壺
古、秋

右印五頁

壺の系、う、え、う、ふ、と、ち、屋、種、ハ、才
文、指

禮、札、や、む、り、ハ、壺、の、名、ハ、終、也
奈、木

山ノ井

あ、れ、い、の、の、ゆ、く、あ、う、ハ、壺、の、春
巴、江

奥、の、石、の、壺、ハ、う、川、と、ち、道、采、ノ、類
信、竹

小壺考

蓬、菜、や、床、ハ、も、壺、の、ゆ、い、ハ、川
荷、云

和、の、の、壺、ハ、松、の、葉、と、壺、ハ、石、
對、峙

能、齋

壺、ハ、人、の、身、と、ち、福、有、才
榮、白

あ、の、物、ハ、壺、ハ、川、蓍、と、壺、ハ、石、
半、編

羽衣

壺、ハ、身、と、ち、も、お、う、ハ、代、の、春
字、秋

門、堂、と、之、係、ハ、壺、ハ、石、と、ち、壺、の、石、
弄、弘

一、係うゝ此壺と明の壺 常指
こゝろは唐蕪し酒く壺の取 古秋

右印五良

壺の系うゝ兄も壺と名唐蕪は身 文指
禮札やむよりハ壺の名は終も 系木

山ノ井

あはれいとの酒くゝあゝは壺の春 巴江
奥の石の壺より川とや蓬菜ノ類 信竹

小雲岩

蓬菜や床ふも壺の端いと川 荷三
和りの虫一葉松の葉と壺よりる 對崎

熊鱗

壺をこゝ人形酒と福前守 榮白
あの物も壺の川蕪て器り壺 半輪

羽衣

所壺を移るともおと所代の春 守秋
門堂と之係も是くはて壺のま 弄松

長花改

三井寺

新交より香も貢や代くつる

寺治

幸福や女人禁制も香もよる

柳牛

非明

香も出さず戸も非終あり存家

山鯉

柏もよる香も一研や恵方棚

東睡

菴局

香も今物後口あけそ和柔の湯

雪點

福引も香もよるそ真家老

三枝

山陰

管つや壺の浪小も芳世栢
蓮葉の浪程有し壺の中
水壽

八重垣

大少や生路ハ壺の程ハ
雨林

けい新常の葉も壺の葉
林雪必羊

玉換

宿の壺壺の八千代と葉と
夜香

宿の壺壺も葉も
梅香女

三井寺

新字より壺も貢や代く
予浩

辛福や女人禁制も壺も
柳牛

井明

壺も虫も戸も井明あり
山鯉

栢も壺も一研や
東睦

菴局

壺も壺も後口あけ
雪點

福引も壺も
三枝

此書も延暦少くも子代の巻
松意

紫猿
此書

紫猿
百舟

紫猿
比雪

歳且定連
江蘇

唐小古
引雨

一頭方
終路

細猫の
李堂

君之代
枇杷

雲あや
玉秋

いと
桐而

美
聴而

茶
紙雲

飯山

忍く者 峰下と 壺の 倉の 海を

小巻よ 岩 掘 崩 や 壺へ 下り

水 壺 壺 壺 壺 壺 壺 壺 壺

壺 壺 壺 壺 壺 壺 壺 壺

壺 壺 壺 壺 壺 壺 壺 壺

壺 壺 壺 壺 壺 壺 壺 壺

壺 壺 壺 壺 壺 壺 壺 壺

壺 壺 壺 壺 壺 壺 壺 壺

双雪

古岸

長梧

松意

百舟

比雪

歳旦定連

江蘇

層小も 下りく 足ぬ 奥や 花の 表

一 頭方 素う 下り 爲すよ 若く 若

飼猫の 暇 妙あり 福を 予

君と 代や 耕 下り 下り 若 若

罽毵 巾 衣 下り 下り 下り 下り

いと 下り 下り 下り 下り 下り 下り

下り 下り 下り 下り 下り 下り 下り

下り 下り 下り 下り 下り 下り 下り

引雨

終路

季堂

枇杷

玉秋

相而

睡而

紙雲

神鶴や糸も小徳のおつらう
 多引や片まう世ぬ物の結
 抄物のまゝ只虫しそ筆
 跡梅も目のそ逢う福言学
 撰もくく花の息しう幸男
 えりや梅より先へ神突ひ
 花まの亭上や糸筆所の
 抄抄や梅も振るに南窓
 葉のまを年のま更や明のま
 孤相
 凡^凡雪
 楚雲
 洞中
 魚魚
 長芦
 紗江
 東枝
 何長

春興

梅かしのやうそとをふやま葉揚
 短梨とよもくく遠し梅の無
 身葉のまも梅くく梅の枝
 おあやや梅標彩色のそふ雪
 肉やせり梅も修治も梅を雪
 霜雪の目よふ雪を結く柳哉
 梅引のぬとすく虫も帯哉
 雪の舌も解さうと思る水
 童牛
 抄雪
 時来
 松玄
 如林
 冠峰
 花溪
 此雪

常々よ忘るる年いふし一交新 百巻

梅の真の蟹よ余ふささるぬ其 不舟

常や世を離るる生を軒の毒 深魚

浪をよまあしし書してワる物 花光

賢四ふも若く遊ゆる風中 方丈

常しつた世情りてや若ぬる由 紫洛

浪入や先常の卒らるるあり 一巻

至魚の毎や境を治て居る 眼里

三番私や常よさねしよぐりゆ ^女お梅

花うもよとあはれく猫のうりてる 長橋

手拭と若縁と又せり命を若菜畑 夜魚

目と世の影もあはれくと柳の音 伎市

藤少抄抄をうりてる常一其 琴江

青柳や縁ののりさめりてり 抱菊

梅ありと思ひ勝るや梅の花 山長

梅よ似せし片梅や梅を洞 蓮舟

常の影やも似し川抱抄 故竹

うらむすの柳もあはれくとくちる其 臥遊

風見やる柳也香て風中
 遠きと名折りゆく柳式
 梅の香や素戸よ梅も風と
 常の遊い西やんめの村
 ころもや命の梅おの戸も
 清家の経度やん巻の
 孝文の目も巻入や梅の
 思りゆく万の梅あり梅の
 下もえんぞあめ梅もるや
 梅の
 烏秋
 以洗
 素聖
 紫野
 五達
 竹中
 三枝
 雲點
 雙空

お梅やゆき糸の
 まちのまへよ梅の
 梅のや吉井の
 古存
 山經
 東暁

歳旦 武州

梅の香よ
 梅の香や竹も
 初元や
 一糸の
 御堂や
 五京
 辰口
 楓和
 河野
 孤産

門去や旭とよ原の結流一 求首

花昔の多條や花の置合と 不稱

先神の志の角と字よりり 海江

手鞠のふりやまはるやほ運結 魯堂

百景や地入形は折戸 吾山

お子のこや装のえんほの別と屋 じ光

飾業や昔回の粒と雲也一 有満

袷袢とある七袋や結了丹 至雄

とや木よりおん付るや移音字 星根

お子板やあやしく藤の床よりら 確江

毎季の扇もくくもくく明の暮 氏秋

花昔は所うやお子の細流と 守孤

学や先ふふやとあもくも 三洗

けく子の智あしめくくあふれ 辰帖

お子のこのや水とゆきや折の委 如お

海山の竹根と昔くくお日の出 又燕

扱入子向ふしとく石の暮 出乙

海山も扇の流くくあひ物 年治

江野のまゝ。岩戸の初り。子
牛渚

舟初も麻加織。一。高。子。子
江古

居種。の。望。の。あ。移。あ。や。白。紫。波
市。お

空。野。も。籠。も。の。あり。神。く。ま。ま
市川

静。ま。か。風。の。ま。ま。旭。う。南
高。栄

八。景。の。浪。風。仕。合。ま。神。や。あ
高。帆

常。の。舟。も。解。あ。や。時。の。京
巴。救

万。景。も。ま。ま。の。名。戸。と。宗。ち。り
丁。治

神。船。や。舟。架。の。船。も。代。り。あ
三。津

門。ま。ま。の。山。治。と。ん。せ。て。後。の。ま
魚。山

後。者。も。ま。ま。の。あ。ま。あ。一。門。の。ま
乙。治

お。船。や。ま。ま。の。船。あ。ま。ま。の。乳
秋。二

お。家。の。ま。ま。も。音。し。ま。お。の。ま
柳。あ

改。め。く。ま。ま。の。豊。ま。ま。の。あ。お
古。川

常。の。後。お。ま。あ。り。新。の。ま
古。観

浪。連。繩。の。乳。も。八。景。徳。や。お。の。出
系。人

小。原。女。も。唐。く。ら。も。ま。ま。の。ま
平。原

春興

幸津の柳も 紙ふや指のく巨

品川 系木

糸糸と流るるをくあのかき

竹本 山童

若はのちもふ風の柳も

長竹 山童

来ふるをとふあふ柳の村

袋 千巻

もふらうの空をてぬん周の香

善島 車産

東柳も流るるを市風の

肥塚 白塘

流るるを流るるを梅の腰

吉見 巨山

あふるをふあふ柳あり畑の編

金谷 何亭

何糸の柳やしりのあ一本

松山 芝仙

ま柳の身とあふるを柳の

本左 若果

帆柱と津の梅や屋の尻

市崇

竹の葉のあふるを止ふ燕の

牧西 支山

流るるを上るるを柳の

角田屋 浄史

あふるを所家あふるも谷の

新菰

山童

下巻

十之五のふらあふるを日の初

白字

山一のあふるをあふるを日の初

千巻

志うまのあらしをさるし口の所
市道

美濃へ寄る地をさるる白子
赤松

み水や流とゆきとせいの乳
杉重

陸奥のあしと我くと舟舟
楕舟

伊豆のや柳を舟と梅の結
花江

ふとくし久島をくし神さくし
兼舎

大少ののみくしあしと舟の舟
海川

山と雲
山

雪解や山のふとくしハ
雪解

古道や茶碗の竹運る。あらし
舟船

雪解の雲を舟で梅の雲
後吹

茶碗
上巻

茶碗やちよ梅子もあらし
和笑

舟の舟子合さる。あらしや床の不二
風情

あらしのあらしを船とくし
夜来

茶碗も舟とくしあらしの雲
舞真

先づ連の舟をくしあらしの舟
舟舟

茶の雲や梅子舟とくしあらしの舟
市栖

神楽島や茶谷釣あまの香 遊ふ

悠遊さくらの月七節遠や神もまゝ 大布

まゆまの行列 掛ふち子うま 布衣

門くや五代う後まゝ木の香 神楽

日の影の曇るゝ思あり後あま 西川

万葉やまの門まを柳くくく 梅香

遠国や新の船行は梅の具 亮江

神楽やあまもあまもけあま 雅江

まの香やあまの思ひあ 藤山

あまのふゆをわ 居の居まあま 乙野

まのふゆのふゆのふゆのふゆいお 満川

おまのふゆのふゆのふゆのふゆいお 鳥江

あまのふゆのふゆのふゆのふゆいお 校香

えりやあまのふゆのふゆのふゆいお 香江

梅のふゆのふゆのふゆのふゆいお 山杏

官のふゆのふゆのふゆのふゆいお 赤仙

御のふゆのふゆのふゆのふゆいお 園衣

門のふゆのふゆのふゆのふゆいお 非吹

振売ハ戸の重くあり後縁 亦お

了務定ま 海くも神代の多敷り 松心

君く代や 虫踏元口を門きり 麻立

梅の村よりく 屋くや 神礼者 翠坐

横やと 河中 舟よや 舟日の虫 舟陰

命の春よ 口キ 枝ありくく山物 舟曉

も海より 船も 舟り及や 浮き船 葎経

唯つとや 嵐の目より 古舟心 古貢

東無

下野

大興

下野

美茶かぬらくわの神のをるるり

語竹

東且

相州

糸増も 草い 草い や 神り 糸

左整

帆柱の 虫ふ 世あしや 神り 糸

白樫

も 梅や 山の 嶺も 藤

柳成

糸神や 多坊の 梅の 信と 虫ふ

柳行

菘梅と ありくく 虫ひめ 虫ひの 虫

芥江

も 虫ふ 虫の 虫と 虫を 虫の 虫

扇耐

撥売ハ戸の並にあり後條 亦如

ヲ物買子 徳々も神代の高麗丸 松心

鬼久代や 虫喰元 門三子 麻土

梅の村より 舟屋を 神礼者 翠笠

精舎と 海中 舟の 舟 舟法

命の 舟より 舟を 舟の 舟 舟曉

舟の 舟より 舟を 舟の 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟の 舟より 舟を 舟の 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟の 舟より 舟を 舟の 舟 舟 舟 舟 舟 舟

十六興

下野

舟の 舟より 舟を 舟の 舟 舟 舟 舟 舟 舟

軍且

相州

舟の 舟より 舟を 舟の 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟の 舟より 舟を 舟の 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟の 舟より 舟を 舟の 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟の 舟より 舟を 舟の 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟の 舟より 舟を 舟の 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟の 舟より 舟を 舟の 舟 舟 舟 舟 舟 舟

神をやあめらの悔も唐もさる 巴东

さかたしと申すもさるる鐘や玉の妻 山寺

お新よあつちの粟の雨ふりり 年節

けしきもあつちりもあふおしり代 古山

そ道のつなも総ありつ連飾 倉麻

縁空やあつちもあつちもあつち 中石

氣はさぬあつちやあつちとあつち 糸圃

何れもあつちもあつちもあつち 白鳥

あつちやあつちもあつちもあつち 芦花

あつちもあつちのあつちもあつち 秋川

あつちのあつちもあつちもあつち 吹雪

あつちのあつちもあつちもあつち 白煙

あつちのあつちもあつちもあつち 子米

あつちのあつちもあつちもあつち 山芝

あつちのあつちもあつちもあつち 夜梅

あつちのあつちもあつちもあつち 那知

妻無

七人の妻もあつちもあつちの妻 小指米 冬信

お新よ ちのの 粟の 用よりり
年終

生うしよあさつりもあまふ 神り代
古山

そ連の びを 絶あり 浮連 飾
倉麻

綿糸や 赤糸も せうく ちひ 笠
中石

氣冷くぬ 振や ちあ と 忘を 始
穴園

烟箱も ちう 随く あれを 神りり 虫
白鳥

ちう 追や 聲くぬ 唄と ちあ ちう 笛
芦船

葉物くぬ 柳の 若く 竹 葉 杖
秋川

泥の ちの ちの ちの ちの ちの ちの
吹雪

ちの 合の ちの ちの ちの ちの ちの
白煙

大魚の ちの ちの ちの ちの ちの ちの
子米

昔の ちの ちの ちの ちの ちの ちの
山芝

所 並の ちの ちの ちの ちの ちの ちの
夜睡

幸柳や ちの ちの ちの ちの ちの ちの
那那

妻無

七人の 妻よ 出ぬや ちの ちの ちの
ちの 借

小指菜

青柳や川に延びてくる中産綱 柳生

紫貝 上望

万歳の神も力中絶りて 楓江

輝く社や深の秋田もなれん 女一紅

蓬萊や扇の跡も候津よ 晒川

先づ富中よ誇りし柳やなれぬ 仙町

知れくや先やしらぬの神唐 洗江

静くもあまの風の扇りて 苔白

系糸の目もや雲の木のちり 春市

蓬萊の 意取舎連

蓬萊の舟も扇子や長袍 乙人

柳もくも民布の戸怪やあふ柳 真直

海もくも真をりし知やあらん 移水

仔細海老や湖の海も扇静かな 呉溪

あくくし餅の鏡も静かなを 初江

月星や相子の中の内うん気候 唱水

雲国や先葉のまも秋の心 進風

雪水くも産物ゆふや小殿尔 東市

考之也やふふし櫃のつゝゝ板 片鷺

津材の飲糖も茶もて 神や鳥 葵谷

櫛もろの落葉山の旭一りり子 用和

つら葉やまの露の後の兵衛おも 芳池

西十二年

老りお子や下らふら出ててなな屋屋を 森鳥

門もももななりり木もあり梅の乳 字濫

来無

高寄

紫貝

信別

安中

七郎

常しり柳うあさり小松原 呂扇

茶且 提州

早はる月花の蒼や三ツの鳥 巴舟

あしははたき喜と

あしははたき喜と

あしははたき喜と 京都

門くへ雲も出流くや雨代のみ 源船

くぬきの飾や武志のし路く 麦都

草のそや又遠と空もゆみより 五風

改正 信州善光寺

月もはる夜とくくふのゆり花 知候

あしははたき喜と 未雅

あしははたき喜と 紅之

あしははたき喜と 耳水

あしははたき喜と 雨亭

あしははたき喜と 竹也

あしははたき喜と 千松

若頭煥捨山系 七卒

幸しくの如敷事もしうゝあふ柳

江訪 谷水

春の室 祓と祈ふ 且くふ

信列 大跡

柳のうきも一入る水や夕霧の雲

武州 茶相

宮も今も青く 髪半目の花を始

矢相

神楽の歌ふや 松の節のゆるる

楓堂

津井の清き水や 柳もあ

看月

書物や 菊の香ふ 草つらみ

小羊 危経

唯つらや 矢くら 葉の祝ふ 柳

百石 西扇

雲と夢さうり 夢ては 柳り 糸

西扇

糸柳の結の 柳もきん 柳海老

糸柳 糸白

柳うねよ 草と春 一くさ 柳の春

草白

春 一くさ 一くさ 一くさ 柳の春

はの 家江

只海波も 静や 舟の糸もあ

松風

柳空や 草も 一くさ 柳中

孝玄

柳多風や 春うゝ 閑く 扇賣

果眩

高きうゝ 春と 新色 柳うゝ

上庭 扇友

暖簾の戸 娘も 深く 春うゝ

斗長

青空の中 一くさ 一くさ 一くさ

竹仙

芳跡をり早し雅英の花鑑

つるま

同出くしとく子の詞や出代の書

はた
友影

未廣ふふ年の書のも月り外

升馬

おきまき

万代の書光のや神日の出

上州
谷尺

み水や光の妙解くく

玉船

柳の日はさき終るなりつ條

長缸

川をゆふは連るうくは旭光

仙林

置花と練下よるくやあふ柳

長肩

常も身よの歌やそ歌の書

芦鴨

あまのつと体ゆり松の門

兔尺

あまのつと体ゆり松の門
あまのつと体ゆり松の門

武洲本庄

万葉中あまのつと体ゆり松の門

書龜

花の白と先をゆりおこらみ

市雪

常も秋の書とゆらまき

雪羽

おりの書も伴くりそ歌の書

方舟

修好船の文あふりありおみ素

舟奴

雲舟の終らりや門の書

東比

車戸の芳名をそめてのり
長車

若八景

神楽あまもも鷹中目の裾
孤帆

美水やせぬくやまの湯
葉坡

梅白一醫志もほ連の萩
一峯

常より門をぬかぬくやま
野外

赤く表のちやや空の花
花六

武見牧西
武見牧西
武見牧西

赤雪の松も面白く
極夕

うらみもあ曲面白く
遠柏

あまももあ面白く
東仙

福川の京面白く
采玉

酒のくつあ面白く
梅玉

竹のくつあ面白く
柳赤

遊魚も先ッ面白く
糸秋

井も風も面白く
木者

毎火の影面白く
江踏

源おの字而ふー海若海 高岡
お芳の影面白ー志の不二 秋作
おつらの絶るふー美をば 車玉

右十二章

おおのそびゆふしよのくおる北

武州

如登

海之系卒の統やお物執

武州

梅原

おりけらうらまを解てのるの美

琴川

破たうと解ふや月も二白う

竹期改

麦市

水泉の清きふも思ふお物り乳

上志保

家條

書物や書と書の徳先より

紙手

おし里と和ふの神くお物の美

水梅

大紋よりお梅ありのおしと

秋堂

家卒とあう屋おしや琴の美

兔角

海原や念ふやうあておりの出

梅光

仲人と園根ありく水鏡ひ

下徳

弘川

おらうく破の別業や御海を

梅末

卒柳や小蓬果ふ古知官所

三橋

おと表やう小堂の口もくおる

武州

若菜車

福をたぐらふ茶や雪の雪烟をり

相州

湘水

清涼なる水の物と生荷の子

舟路

千福若の鈴い掛し千矢ら白

当船

万葉や窓の花の古流のみ

岸山

河の原の上の赤いお日の出

長泉坂改

岸呼

縄巻し一トと掛し江邊柳

煙あり

赤やももほもあそり福言州

多福

柳とまきの月し門くくく

沙磬

新法即し春十神一よりお日の出

常川

免紅

修保明の雲い向ふお日のくく免

下伝

長河

どのうすお山し物しりりの河あ

福路

何りく中宿生し修保みや日の如

聖冬

真興之巻

梅咲くや雪のにもぬく雪忠志

下野烏山

嵐庭

はるも雪も雪も雪も也 若乃妻

瓜別

先達よ雪も物もあり 芹子荷

品川

完山

雪の雪いもやも物り日神定

武列

橋下

柳や雪も 神りの道あり也

武列

系碁

井の泉をよるくくや水鏡ひ
 魚文
 空のくさむもさるや
 魚柳
 大波の勢をくくりくさるの表
 芦^江灘
 杉木くさる減くく定の表
 占市
 柳の身や居纏らるるもよ飛くま
 加松
 今柳やさふも幕のくくりくさ
 雨竹
 歩の日の強しき本や門の表
 和吹
 鳥島修不^くく^く出ま^くく^く
 梅留

唯くくくくくくくくくくく
 致良
 柳くく掃除くくくくくく
 秋波
 暖簾のま海系や神の虫
 南江
 若くくくく富生ハ向くく神くく
 壺洋

其無...

其茶中くくくくくくくく
 品
 膝くくくくくくくくくく
 冬涉
 若柳や枝無の空と掃ま^く
 青全
 砥石のくくくぬ川あり^加荷つ
 季巴
 波城

夢や柳の宿をよ寝てしる 忍 曲あり

花の候くのももさるる 遠及 白鳥

松風も越し仲方や門柳 至 水

万葉や先ツ門表子櫻くく 龜波

西上総栲葉の句よふく一字のも遠くや
とくも四の集るるをわらへんやうらやう

奥無

下をえんや雪はしらを 江好 春江

あつとまへや雪ありし 秋五

猫の糸締縁杖と習く 魚遊

雨小中流の事よ 正徳 夜江

春くや柳さる 百秋

唯つとや急く解よ 舟 春路

春興

目に見え光とを秋の

三子一ツも 三斛菴連中

柳く流る 古 道

麦飯のあり 老 梅

梅く春や遠風 春 堂

外庭委しき葉つむりや押の心 巨約

葉運の机空とや委の心 此巻

神く空を裁袖しきふりる哉 左巻

空や暮板すくまきり月 朱雁

うらひももよう 秋層のそ外 翅句

まき糸や地と空とく月井筒 飛来

帯の糸ぬ連もあり梅の糸 紫左

物心よ空の流らふまき葉哉 戸原

帯と山跡まきとつまはる 竹外

古葉

白頃任心本

江那

疎林や赤の葉はうけ流し 玉芳

一煙のまきふふあう疎林の梅 谷水

空しきや流りくまき葉の音 糸相

恙なき葉葉の年の口より雪 大落

美庭よ入破らるの年團と 女桐

あまのまきや葉一を流木の梅 楓堂

連秋叶のうくの白ひや身忘 看月

月雪と枯葉のまきと流木 危鐘

環輝平瑞の歌也見道系

仙竹 作田 望

輪扇の抄之趣乎平の空

谷村 架坡

山麓の輝ト云々何處の深

近助 舟

至年の丈と嘆乎平探招の空

遺葉の珠を色一係探の御

業 藤友 流尺

洞漏の燈と探乎平の道

斗長

乃年の果中或燈の八百里

西島 東内

魄と出く空の細り昔舞の

江船 家江

厨殿と空の細中探の亦

内倉 爽

緒の付く無名中平の押送

長中 帆

乃年の丈と嘆乎平探招の空

仙林

庭之三年の室中雲依
門くは年の矢新中餅の名
乃年の彼より何と懐く
刈年の御之餅の味より
而庭の自新中年の風も又
乃年と云ふ此年の御六
りとの世分は一大海言
豆もや毎年の乳母也も
庭くは風野分年の御

長眉
芙蓉
卷尺
孤帆
支
六
外
衆
石

己智の第六妙なる九抽宛
根より風帆の年仕舞
年の風の宮と照る水赤穂
庭への四季と雲何如
お為より新麻と雲中年の飯
女も中よりありてこの雲
言風の造化より是等の坂
川庭と懐心なり中出車
館と病を醫ふ新中多志

本
雲
不
雲
市
方
竹
東
長
也

昔夢はくち舟よの産の抑子くふ

吉見

麦市

是流と結く矢よ家ま市は流

梅枝

帯よ石紋伝りや年の暮

琴川

餅つて或や珍味もまじりて表詰る

滝沢

翠條

年の矢の宵にどろろ湯釜の軒

東金

鍼舟

片枝を忘の押伝や瑞衣の襦

梅先

餅つてや山の餅も里へ下り

奇毫

おちおち年の首や茶の空

兔角

龍象ハめをねまじりて昔夢は

妙梅

言れぬ市も水代の即えうそ

川越

易橋

月一そよぶ病も中夜の新夢をぬ

偈嵐

若も丸く昔の物より年の心

立路

空も水雲人もあつや暮とて空

忍瓶

暖ふ互憶のしや餅のそ餅

丹良

梅の香も新夢をなかり年の暮

川寄

茶車

白濁の暮も古ひて年の川岸

冬戸

三橋

昔夢はやららもせりし頃の雲

若我野

握来

長生々の空節して死らぬ

以川

垢籠よりて下も表へ年々

空

一と皆ろ花より子一破テ交交

萩園

煤より七骨折り子一在拂い

当取

昔季のや田舎の軒もさよま立

中原

岸呼

ううと森の骨さきんや昔季の

谷市場

帰山

ありと世と道もろろり年々

烟丸

難中のまろもろり年々

身命

大々や少ふ情ふま 僚

河琴

手もろ下戸ハ元祖とさうり

中島

老取

倅控や末一向くらり

能子

長河

海つとこの式や庭子のけり

流河

倅福や河筋も昔も昔あつた

理冬

川を年の光福もあり年の市

金泉

素智

岩々のまろろろり

橋下

岩もも端もろろり

完山

岩もも端もろろり

如水

掛もも端もろろり

島文

幸のおや不のろろり

翠相

海うねり燈あかり

江都 芦雅

幸の波のまを海くまを中

占市

行年を止らるる子く草垂い

故松

糸天よ雲巻の賊あり室舟

雨行

り幸の常より針の横うか

和吹

米ふ巻を鷹くま川や垣轆

加州 月輪

際より何変てくまの市

吉見 季巴

串柿の移よおらぬくまの市

金谷 洗雪

くまの市くまの市くまの市

白鳥

くまの市くまの市くまの市

洗雪

くまの市くまの市くまの市

不水

くまの市くまの市くまの市

堂庭 夜江

くまの市くまの市くまの市

八橋 百秋

くまの市くまの市くまの市

大坂 雪浪

くまの市くまの市くまの市

川越 室舟

くまの市くまの市くまの市

品川 盈枝

くまの市くまの市くまの市

紅粉 秋波

くまの市くまの市くまの市

雪浪

袖もきくほくをふや年紅を

江都

湯葩

きくくそ風も扇ふや尾拂

午揚

その身の古いを何やれ納め

揚芥

蝶の白やきくひて脚ふ志の井

加條

湯家の奥ふくくくく條の元

徐水

袴をの帯もほくや襟拂

至曉

漕てきく裏の先衣や飾去

再襟

行年や鏡の室よそふ外ふ

老星

付ありと年の籠やあの世

梅人

歳暮 定連

江都

紫鏡や面をひく出か年の市

川由

年の尾を巻きくくくくく

夕涼

脚ふくくくくくくくく

孝星

行年の色の花もあり古屠

枕燈

挿ふふ借の不二や年の雪

玉秋

る處もく思ふ料解の花

相る

日の年のおあり目や窓のあ

独る

海心も月ものやくや年の市

残雪

今更くも耳を清くもと縁の音
 水く波くも岸の気くもや岸子長
 表町を新く行りや尾くもい
 無帰も眠くも岸をや舟の奥
 昔よりゆの息もくもや本舟
 引向の行連や巴もよまも
 川橋ふも同きもくもく
 昔よりゆや花やよまもくも
 月もも海もくもくもくもくもく

孤相
 東枝
 凡智
 楚重
 河中
 新魚
 長茅
 新江
 河長

紫暮

武別

今更くも耳を清くもと縁の音
 水く波くも岸の気くもや岸子長
 表町を新く行りや尾くもい
 無帰も眠くも岸をや舟の奥
 昔よりゆの息もくもや本舟
 引向の行連や巴もよまも
 川橋ふも同きもくもく
 昔よりゆや花やよまもくも
 月もも海もくもくもくもくもく

川
 五原
 川
 氏
 楓
 河
 新
 家
 石
 綿

若草のや川の旭と流るる
吾山

尾拂とやさりとてや雲の裾
女 吾山

鳴る風の晴るる
肥塚 吾山

子いと川も午の矢先や花の豆
忍 吾山

かろいともあふを流るる
不維

提灯とや赤らるる
星 提

縁柳や扇風の糸は庭もさる
砥江

猿猴のまよふ欲もふ
氏 歌

卒の尾と引揃るる
熊名 冬 瓜

若草の春と自あや卒の言
三 氏

行卒のあはれも
吉見 夜 砦

門の扉と幕やあまの
細 ね

花取も目もり
五 葉

修業やとて
金谷 地 乙

海のまよふ卒の流るる
美 路

赤咽とや
川 越 牛 渚

川の流るる
本 庄 女 市 ね

り卒の行と
布 川

振子ハ市のゆりや年花

牧而 春棠

沈雁もあやとゆりく年花

高帆

鳩のりや知れくく金や常春

寄居 巴救

藍瓶やうしとく音おまの波

出田 丁治

舟の月よまのくあり葉竹堂

トセ 乙路

草香いのありありや雪丸も

之車

入るる帆や漆くくの衣籠

村山 魚山

傾城の前庭ハ元く鳩拂

南町屋 秋二

巨艦くく物箱好まや衣籠

垣花

春のおや忘おと梅と梅の花

羽生 柳水

舞ううと雲出くく年花の市

古川

をるるもつく山刻てや雪を布

古硯

卒の影も浮葉もありてくく

青祐 素人

日くく雪も梅も春の年花

平紙

下総

條摺や帯くく水乃くく

跳子 白字

梅くく也庭も喉のくく

千鶴

候はあや雪も梅のくく

市道

候つとも日やとおと家のの
純帳の帆を飾りり室少の
市中は幸の條やうり雲
新う成布も早ー幸の坂
定紋と髭もゆふや衣配
幸紙やありーう豆をぬめり

上総

り幸もうりぬうりや室の中
山あふりり着るてあや幸の雪

郡 東路

神寄 杉雪

押砂 枳船

香取浦 苺紅

之川 桑舎

津川

大妻

和笑

風流

大智

夜束

鯉魚

二言 紫羽

長雨 市栴

遊外

千代丸 大布

飯尾 帯水

大綱 夢餘

白川

羽子板の縁を丸巻や。市の中
製法はなめて列よりうりーの條
内外方算のたさうりー豆も中
おもしろいよありーの栴雪や尾拂
新う入二階も喜ーをうりー紙
昔のよやどのう網戸と幕う虫糸
本をうり着るてあやゆきうい
一りーとどのう幸あや八咫の里
候候や男もありー布一巻

乃辛や板もてやふ一里塚

東金 枯木

疎の目やえの中をぬて流の辰

兔江

孫より遠く深のまよりや辛の豆

雄略

脛赤や蓮屋の雨の移あそり

翠山

峯上休りり其の月日昼

松舟改 古梅

契漏るあふああり辛の豆

雨岸 乙卯

千念の年月七端や辛の市

辛田 福川

辛の船や戸板の跡を條の目

森 鳥江

解つあやそし之餅の辛の味

枝倉

悔つそや寄るう語もあそ新舟

柳酔

豆餅や流りたれよ非代り

推寄 冬酒

行辛や切ももいしぬ雪の雲

五香

芥の香る谷へ仕ゆつあ辛本穂

田田 素紗

帆漣の健あるや辛の市

戸田 圓衣

赤林まゝ一袋もそり辛の雪

舟吹

辛味や風よ掃る系片お戸

田越 風洞

大早のよもそりあそりや味もい

甘江

辛の矢よ細衣の縁の香もい

魚新

中何縁の軒へもさしや 赤鍋 其白

豆屑や皮の餅と焼く合 如魚

大楠の洞や十も少くも 市碓

湯柿や柿の皮も焼くも 老石

糖の菓もさきの天も焼くも 臥屋

半座

修花や高くの節何れも 龜江

修花や高くの節何れも 舟石

修花や高くの節何れも 杉石

修花の鏡よるふや 枕石 嵐石

修花や高くの節何れも 新 翠石

修花や高くの節何れも 山 其石

修花や高くの節何れも 山 舟石

修花や高くの節何れも 山 舟石

修花や高くの節何れも 山 舟石

相別

修花や高くの節何れも 山 舟石

修花や高くの節何れも 山 舟石

門書 たきしとま と出と幸の何名 知生

昔 まゆい や まゆい の所 すま 耶 や 行 ゆき 抄行 しやうぎやう

吉沢 きしか 昔 まゆい の人 ひと 浮 うき 者 もの ありぬ ありぬ 幸 さい の言 ことば 芥江 かいかう

浮 うき 挿 さし 巾 きん 八 はち 糸 いと 浮 うき と と 強 つよ しく しく 浅 あし 原 はら 付 つけ

昔 まゆい の の や や 錦 にしん の の 一對 いっとう 出 で て て 遊 あそ ぶ ぶ 巴 おん 东 とう

浮 うき 者 もの の の ま ま の の 幸 さい の の 言 ことば 山 やま 青 あお

高 たか 山 やま の の 浮 うき 者 もの 一 いっ 幸 さい 本 ほん 本 ほん たり たり 片岡 かたがわ

然 しか 丸 まる や や 少 すく 家 け も も や や ぬ ぬ ち ち 他 た の の 補 おぎな 不 ふ 足 あ と と ろ ろ 一 いっ 片 かた 幸 さい の の 性 せい 雨 あめ 麻 あし

浮 うき 者 もの の の 按 おし 下 くだ して して 幸 さい の の 言 ことば 沼目 ぬまめ 卷 まき 同 どう

浮 うき 者 もの の の 按 おし 下 くだ して して 幸 さい の の 言 ことば 沼目 ぬまめ 卷 まき 同 どう

浮 うき 者 もの の の 按 おし 下 くだ して して 幸 さい の の 言 ことば 沼目 ぬまめ 卷 まき 同 どう

浮 うき 者 もの の の 按 おし 下 くだ して して 幸 さい の の 言 ことば 沼目 ぬまめ 卷 まき 同 どう

浮 うき 者 もの の の 按 おし 下 くだ して して 幸 さい の の 言 ことば 沼目 ぬまめ 卷 まき 同 どう

浮 うき 者 もの の の 按 おし 下 くだ して して 幸 さい の の 言 ことば 沼目 ぬまめ 卷 まき 同 どう

浮 うき 者 もの の の 按 おし 下 くだ して して 幸 さい の の 言 ことば 沼目 ぬまめ 卷 まき 同 どう

浮 うき 者 もの の の 按 おし 下 くだ して して 幸 さい の の 言 ことば 沼目 ぬまめ 卷 まき 同 どう

浮 うき 者 もの の の 按 おし 下 くだ して して 幸 さい の の 言 ことば 沼目 ぬまめ 卷 まき 同 どう

浮 うき 者 もの の の 按 おし 下 くだ して して 幸 さい の の 言 ことば 沼目 ぬまめ 卷 まき 同 どう

浮 うき 者 もの の の 按 おし 下 くだ して して 幸 さい の の 言 ことば 沼目 ぬまめ 卷 まき 同 どう

士屋

吉沢

巴东

片岡

寺田

沼目

士屋

八幡

田畑

園彦

馬入

中原

蝶拂や素形を忘の梅より
中石
紅

上州

竹海原の化粧ふるりありと年の雪
女一
紅

生解の冬夜がさか子や幸の市
相江

昔夢のいも福を過るや幸多夜
杏
洞川

休春の誌をありありその雪
仙阿

静もさく果をとりて幸用と
信江

幸休や門の節の洗ひ髪
幸
苔雨

さくすともあり一忘れと年の梅
玉
春市

幸志の佳きよ
あり合ふふそのと
歌よりわらうとるそ

竹年の袋も懐一ニ思ひ
沼田
乙人

又結の柳へもさくた年言ぬ
龜直

山小や塔を結よ見て除おの鐘
移る

ふ川の源平もあり年の雲
共溪

山里や祝の海へくくく船
北江

休春もつらや年のてうけい
明水

幸の由はむろくく春の二を切
船足のあつても函人尾ろく
とくちや幸の白葉の仕入帳
煙草や次の下向を大明白
幸の尾の管はもくし子巻
納まふや幸の名所の裏とも
芳代

君十二章

源男とゆく神元は國元北
備つさのさうろくあり門の廻
世川
森島
世代田
芋隘

信列

崇事実やありいよのう草のう
おさゆいさく強多や幸のう
豆を厨や巻小袋もあつあ
さる妙の厨と上世帯幸急
修茶やまくと信一も修
おさゆや終ハらゆくありやの并
徳のうろや市と矢野よまろり
まのまのう燈もあり幸の市
須坂
石坂
塩名田
松代
長江
南蒲
寄石
正井
野舟
野兼

字のまゝぬや房の砂や幸忘
 條 赤や象母も一本のふり解し
 海老夢の跡つと影ありち海り
 笑人も交りくさるるれ果て去
 解らぬや空の雲の上も晴く
 陽も月と揃も揃をく幸の言
 幸の尾母連てせりやもてさあ
 幸のぬも色縁造りけし縁
 幸の返紙く力あり條の言
 玉珂

五表

席眺

看江

夢を

平端

瑞之

麦竹

戸燕

玉珂

八百屋ハハ幸しや米也幸の言
 市やとさりありや幸の風
 抄り字も和してまゝや幸の言
 不抄り空の隅見て幸の言
 幸の終もつとや幸の言
 幸忘
 龍階鞠之詞 十章

鳥白

仙菊

休木

白鳥

巴口

門くや終とけりや
 吾貫

竹竿と衣紋流しや所可女
 杉屋よ居たりとやや飾るは
 幸の伝ふてや船の流流
 床うらや木の所流や笑 船
 雪の雪の音ありと幸も流流し
 井欄と豆と山家の名白し
 掃とてふ流や竹の流流し
 幸の矢も柳つ翳く流流し
 掃とてふ流や竹の流流し
 掃とてふ流や竹の流流し

糸部

流石

石

石

白

風

流

木

先

揚抄

竹竿のさしもありて流の流

巴舟

京都

流のりもみ出されり幸の市

麦部

影る人つとめや厄拂ひ

深部

流のりもみ出されり幸の市
 影る人つとめや厄拂ひ

流のりもみ出されり幸の市
 影る人つとめや厄拂ひ

流のりもみ出されり幸の市

秋 五鳳

魯應の簿とつるもてし御之の簿の
付よ辨あつての事いひ取とさす

守歲 各題古錢

市泉

市泉や銭ともけりも年のを
栢堂
賣酒も栢の賣や年のは

栢堂錢

煉のりや世のけりこりも
時来
考ふ然の聚るをへく厄排
ぬ林

大黒

煉掃や柳くく馬い
賣
符牌

三千坊抄の錢も年用
花江

夷

年紙や銭もとあ
の官所
瓜出

穢婚とさす約系
や年のは
茶乞

福如東海

浅る多く
年へ
見や年縁
一邊

山伏も練の
み子
讀め
深おの門
空肩

山形 神巧用宝錢

此錢は掛も泰西の大名も 古比

有難や銭も和定の年の産 賤里

此の金、此の年、此の産

此の心も銭も此の産 此の産

こちやよも年をいへ銭の膚 菜湯

三ヶ 銀、心、此、此、此

西行の指も清さちよ余用意 牧市

勇浦も銭色ふし 此の産

出入通寔、

通寔より一切のあり年の産 此の産

貫指の出入も此の産の言 此の産

萬年通寔、

年の松や酢香へ銭と入産 此の産

名、あふ銭も此の産へ年産 此の産

開元通寔、

貴妃も此の銭も此の産 此の産

此銭も月も此の産 此の産

朝鮮通寶錢

錢の利は人考よりも年の際 烏粘

遷来賣や錢の身價運使し 紫節

龍鳳通寶

大平の錢おも聖儲への有 丹市

出と遊へ年の有も錢もくも 五蓮

大觀通寶

錢の利は人考よりも年の際 如洗

遷来賣や錢の身價運使し 素雪

唐

錢もや日本もとねく年の市 子杏

條茶の昔もやとねく年の市 山螢

平

辛急矢刻の年と色も錢 山亭

錢もや日本もとねく年の市 柯亭

中價偽

偽しん年の何れへ錢拂 芝仙

僧賣の結りぬ年と色も錢 素雪

三日月鏡

身付や沙とく、年の眉化

五山

成市へも月ハ、あこり換賣

白塘

おびく、念佛、

襟も若く、紗の御珠、や年の市

串崔

年のつれ、も十万、億や渡し、紗

支山

初来の類目、

穿ふ、浅も七字の、無や、く、海を

市棠

く、の、ぬも、拾ふ、や、紗も、特、胸石

響丈

五品

日行千里、

月、年や、沙の、熊、麝の、足、は、是、か

秋流

行、く、也、衆、御、ハ、沙、と、や、り、水

呼雲

和同開珎、

年、信、や、沙、も、納、ふ、具、足、翁

夏年

年、銭、や、非、へ、和、く、國、の、銭

福本

玉、

表、侍、や、午、和、く、徒、も、塵、出、米

言秋

後、沙、を、面、向、不、肖、中、の、客

常福

文錢

書出の文法上あり字の錢 五端

中子達の原書や錢も千字文 素木

も 駒引、

跡を頼約の歩りや字の布 已江

第の向も跡も常にて表をー 誤弁

嘉定、

〜ゆ〜や跡も十六卷の大皇 有之

唱競や跡も表と字解の字 對臨

平安通寶

鑄跡の於方りや字の傳 業而

考り版も錢の九条とーの果 半端

長命富貴

形も事跡もゆ〜字は森 有款

長百ハ錢も出テ字の三 果松

も 無後、

出の〜字は〜一終致て石記 管吹

字字も使も終一 清川 水書

舟の首尾大不夫

舟の首尾大不夫 舟の首尾大不夫

る林

舟の首尾大不夫 舟の首尾大不夫

舟の首尾大不夫

舟の首尾大不夫

舟の首尾大不夫 舟の首尾大不夫

舟の首尾大不夫

舟の首尾大不夫 舟の首尾大不夫

舟の首尾大不夫

舟の首尾大不夫

舟の首尾大不夫 舟の首尾大不夫

舟の首尾大不夫

舟の首尾大不夫 舟の首尾大不夫

舟の首尾大不夫

藤丸

舟の首尾大不夫 舟の首尾大不夫

舟の首尾大不夫

舟の首尾大不夫 舟の首尾大不夫

舟の首尾大不夫

七星

舟の首尾大不夫 舟の首尾大不夫

舟の首尾大不夫

舟の首尾大不夫 舟の首尾大不夫

舟の首尾大不夫

海外

舟の首尾大不夫 舟の首尾大不夫

舟の首尾大不夫

舟の首尾大不夫 舟の首尾大不夫

舟の首尾大不夫

北地鏡

國うらの鏡ハ成市子辛字一

長梧

鏡取も磁不瓦結と吸くり

李玄

金玉萬玉

李玄

うら紫や沙万語の針又賣

此雪

鏡へくく鏡とくくくく

不井

天下太平

不井

鏡も拾りぬ沙や逢の辻

深魚

鏡も戸さぬ風代や辛の右

不井

五七

左唐

左唐の鏡

左唐の鏡

海王鏡の鏡の鏡の鏡

秋風

鏡抄や年方唐鏡の置所

門瑟

鏡抄あり

唐の鏡

唐雲定

追加

有りては人の心の
をいかにあはれけり
とてと見えたり

真及仙堂

行遠ふ神の渡やりの言 木梅

ついでにのちのちの
いかにいかに

まづ侍やはしる國よつあさる 扇之

福馬

とていかにも庭の隅の入り子 錦

近於

ややと見えよ一おと年のはる 千助

駿列

探し世のまよひらとるわなりの布 青布



